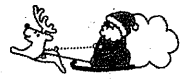


スクールカウンセラー

ホッと☆通信



令和5年12月

茨木市立耳隠小学校

スクールカウンセラー 坂本有香

11月の急激な気温の変化に戸惑っている間に、季節がぐっと冬に進んで12月を迎えたように思います(今年の秋は一体どこに行ったのでしょうか)。2学期、子どもたちは学校内・学校外どちらの暮らし・学び・行事においても、体や心を磨いたり、豊かにしたり、一歩大きく成長したりと、それぞれの子なりの参加や体験の形をもって、今という時間を刻んできたのだらうなあと感じます。個人懇談では、そんなお子さんの日常を先生と保護者の方とで共有されたと思いますが、この2学期をしっかりとねざらい合い、子どもも大人も、心や体をゆったりさせてあげられる冬休みになったらいいなと思います。



スクールカウンセラーのつぶやき



「アレ」に込められた想い ～日常使いの言葉に心をくばると～

阪神タイガースがリーグ戦でも日本シリーズでも優勝し、ファンの方々は嬉しい悲鳴を上げておられたのではと思います☆阪神タイガースの岡田監督は、普段から「優勝」という言葉の代わりに「アレ」という言葉を使っておられて、それは、選手の人たちに優勝のプレッシャーを意識させないようにという監督の心くばりとのことでした。それを知らずにすっかり「優勝」という言葉を口にしてしまった私に、阪神ファンの子どもたちから「それは今言ったらあかんねんで!」と釘を刺され、この裏事情を教えてもらったのです。実はこの「アレ」使いにはもうひとつ意味があったそうで、ここ数年、リーグ戦で2位や3位の成績を繰り返していた阪神タイガースの、優勝への絶妙な距離感を持つ言葉として選ばれたのだとか。「コレ」だと近くにあつてすぐに手が届く感じだし、「アチラ」だとちょっと遠すぎる感じがする、「アレ」だと手が届きそうなところに(優勝が)ありそうなイメージで、程よい目標設定をあらわす意味合いもあったそうです。

実は、岡田監督が「優勝」を「アレ」に置き換えて使うきっかけとなったエピソードがあるのですが、そ

れを知った時、このたびの岡田監督が、日常的に使うであろう言葉(「優勝」)の意味を今一度じっくり考え直してみたり、言葉を使う場面や相手(選手や球団)の状況や状態に合わせたもの(「アレ」)を選んでみるなどして、その言葉を耳にする相手のことを思い、日常使いの言葉を大切に吟味された理由がとてわかるような気がしました。選手の人たちは、優勝へのプレッシャーがなかったわけではないとは思いますが、岡田監督のこういった心くばりに込められた想いも含めて受け取って、心穏やかな状態で普段のトレーニングに打ち込んだり、試合に臨むことができたのかもしれない(´・`*)。

「アレ」というたったひとつの言葉に、岡田監督の想いを乗せて日常的に使ったことで、阪神タイガースという球団や選手たち(もはやファンの人たちさえも)が、何かしらプラスの影響を受けていたことは確かだったろうなと思います。それを受けて、私自身も自分が何気なく使っている言葉を大切に見つめ直さないとな…と改めて思うと同時に、日々使う言葉を大切に紡ぐこと(大切に紡ごうと考えてみる、大切に紡ごうとしてみる)の重みを感じました。その言葉を選んで口にした人の想いや、言葉を紡ぐに至ったプロセスの温度感が相手に伝わって、その言葉を受け取った人が本来持っている力を、良い意味で刺激したり動かしてくれるのかもしれない…。阪神タイガースを優勝に導いた岡田監督の在り方から、そのことの可能性を感じました。

どこかにお出かけしたり何かを買ってあげたりなど、非日常のスペシャルイベントで、子どもの心は開放されたり気持ちも高まったりして、大人ともポジティブな感情を共有できます。ただ、それ以上に、毎日のコミュニケーションの中で心を尽くした言葉や興行きを持たせた言葉がやりとりされることも、子どもたちにとって(大人にとっても)心がほぐれたり、潤ったりするような体験になり、それがその子の気持ちやモチベーションの高まりに繋がるのかもしれませんが☆岡田監督から言葉の心くばりを受けた、阪神タイガースの選手たちがそうであったように♡たとえ些細なことであっても、日常的に味わえるあたたかい言葉を交わす体験に(こそ)大きな意味があるように感じた、岡田監督の「アレ」エピソードでした。